

道東太平洋で行ったスルメイカの標識放流調査

【はじめに】

スルメイカは国内では最も多く漁獲されており、その利用は生鮮だけではなく、加工品としても需要があります。スルメイカの寿命は1年しかなく、産卵場である東シナ海から太平洋や日本海を冬～春に北上し、その後北海道周辺海域に来遊し産卵のために産卵場へ戻ると考えられています。道総研水産研究本部では、あまり移動情報の多くない道東太平洋におけるスルメイカの移動を調べるために、標識放流調査を行っています。今年も釧路水産試験場では、道東太平洋で標識放流調査を行いましたので結果を紹介いたします。

【道東太平洋標識放流調査】

2013年8月25日から26日にかけて、道東太平洋沿岸域で標識放流調査を行いました(表1, 図1)。標識として黄色いアンカータグ(写真1)を用い、ひれ(耳の部分)に装着しま

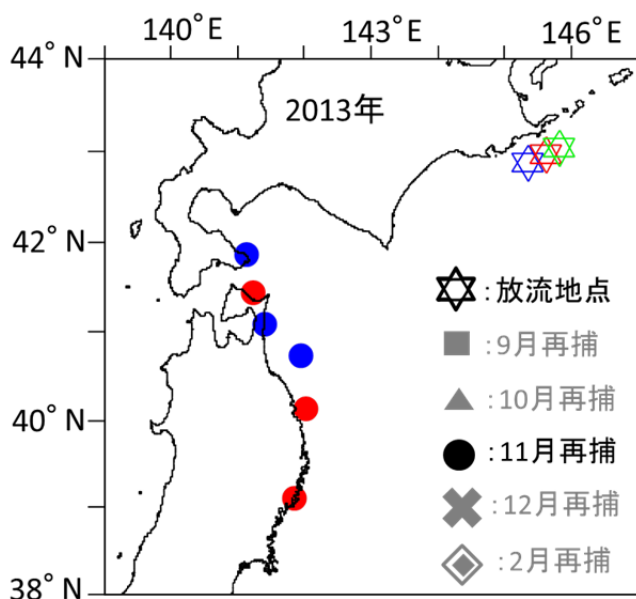


図1 2013年の標識再捕結果
調査地点を色別に区分

した。放流した尾数は3調査点あわせて1,244尾でした。12月6日現在、6個体の標識再捕の報告がありました。それらすべては11月に、渡島半島から三陸まで太平洋沿岸で漁獲されていた物であり、道東太平洋から日高沖にかけての再捕はありませんでした。



写真1 標識タグ(クシロ3517)

表1 スルメイカ標識放流状況

放流月日	放流位置	標識タグ	尾数
2013年8月25日	42° 52'N 145° 20'E (青色)	黄色・クシロ 3100 ~3299,3500~3699	400尾
2013年8月26日	43° 02'N 145° 48'E (緑色)	黄色・クシロ 5000~5324	321尾
2013年8月26日	42° 57'N 145° 36'E (赤色)	黄色・クシロ 5325~5874	523尾

【過去の標識再捕結果】

釧路水試では2001年以降、道東太平洋で8月に標識放流調査を2001、2005、2008、2011年の計4回行っていきます。その結果を見ると9月から翌年の2月にかけて再捕がありました。年によってやや違いがありますが、主に9月から10月には道東太平洋から三陸沿岸の広い範囲で再捕され、11月から12月には津軽海峡周辺を中心再捕される傾向にありました。2005年には檜山沖の道南日本海で、2001年以降では唯一日本海側で再捕されました。2011年には放流位置である道東から遠く離れた三重県の沿岸で再捕されるなど貴重なデータが得られています。

2013年の再捕結果を過去の4回と比べると、11月に津軽海峡周辺から三陸沿岸の広い範囲で再捕されている点が違った点でした。今後、海況などの情報を加えて、年によるスルメイカの再捕位置や回遊の違いについて明らかにしていきたいと思います。

最後に、これからもスルメイカの標識再捕の報告にご協力をよろしくお願いいたします。

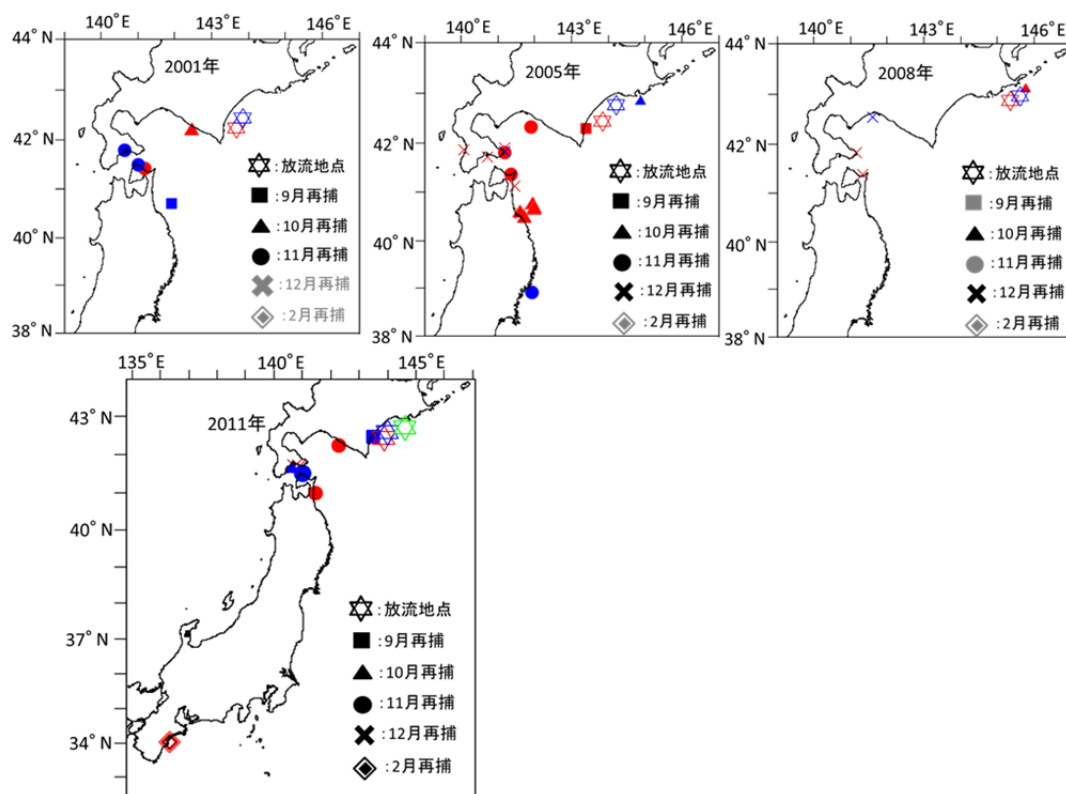


図2 標識再捕結果 (2001, 2005, 2008, 2011年)

調査地点を色別に区分

(北海道立総合研究機構 釧路水産試験場 調査研究部 佐藤充
水産研究本部 企画調整部 坂口健司)